

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300582		
法人名	社会福祉法人 宮城福祉会		
事業所名	うぐいすの里こもれびの家	ユニット名	なでしこ
所在地	宮城県栗原市鶯沢南郷広面46		
自己評価作成日	平成 24年 1月 10日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年2月14日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設の周辺には、保育所・幼稚園・小中学校・診療所があり、医療・教育・福祉が一体化しているような環境である。その為、小中学校や保育所との交流は活発に行われている。また、特養が併設しているため多くのボランティアの訪問(踊りや歌等)があり、楽しみの一つになっている。利用者様との関わりは、一人ひとりのペースに合わせ得意な物を行ってもらう事で役割を持ち、その人らしく楽しみを見つけながら生活していただくよう職員は心掛けている。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>本ホームは社会福祉法人宮城福祉会が2004年特別養護老人ホームに隣接して開設した2ユニット(1ユニットは障がい者4名との共生型ホーム)の施設で栗駒山を背景に敷地も広く建物もゆったりとした間取りとなっている。2007年にはケアハウスも開設され、近くの鶯沢診療所と共に、地域福祉を担う核(宝)となっている。運営に当たって地域との関係を深めるために意識的に地域への働きかけを行っており、保育所幼児、小・中学校生の受け入れだけでなく、入居者と共に小学校の窓拭きや校門での春秋交通安全運動呼びかけに出かけるなどの関係を深める活動は入居者、職員の楽しみとなっている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 うぐいすの里こもれびの家 )「ユニット名 なでしこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に理念を作成している。ケア会議を行う際には理念に基づいたサービスが提供されているか確認を行っている。又、理念は業務日誌やホーム内に掲示し常に確認できるようにしている。	れんげ「ゆっくり・いっしょに・たのしく」、なでしこ「地域との交流」のユニット毎理念を作り上げ、実践に取り組んでいる。カンファレンス時の理念について話し合いやホーム内掲示、理念を書き込んだ日誌で共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に保育所、小中学校があり行事等での交流を行っている。夏祭りなど地域の行事に参加し地域住民との交流を図っている。又、地域のボランティアの踊り等の訪問を積極的に受けている。	地域での春秋、花いっぱい運動参加、小学校前での交通安全呼びかけ、小学校の窓拭き等の地元活動やホームでの保育所幼児との交流会、夏祭りの子供神輿や踊りボランティア来訪など地域とのつきあいを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に積極的に行っていない。今後の課題ではあると思われるが地域行事に積極的に参加し地域にこのような施設があり施設を利用しながら地域交流が出来る事を啓発していくことも大切だと考える。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加いただいている方々より積極的に意見をいただき日々のケアに生かし地域活動の取り組みに活用している。推進委員は地域、市町村、家族、利用者等のメンバーで開催している。	入居者、区長、民生委員、支所職員、地域包括支援センター職員をメンバーに震災後対応具休策、DVDによるホーム生活を紹介しての助言等双方向の意見交換をしている。この1年は、これまで3回の開催にとどまっている。	管理者は一層のサービス向上を図るための案件を検討中と話している。県指導の年6回以上の開催と推進会議での双方向な意見も活用したサービス向上への反映を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事務手続きや研修・検診などの情報をいただいたり細やかな対応をいただきながら連携を図っている。	支所職員が毎回参加して推進会議の場でホームの実情理解への働きかけを行っている。震災時の避難者受け入れや困難事例、介護保険関係の手続きなどで支所や市役所へ出向き相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃のケアの中でも注意している事の一つである。身体拘束や言葉での拘束が行われてないか日々目配り・気配りをし対応している。又、近隣住民にも連絡の協力をいただいている。	入居者一人ひとりの外出傾向を把握し、声かけや見守りなどで対応している。隣接ケアハウスや近隣からの連絡も頂いている。落ちつかない入居者について職員間で話し合い、家の心配が要因と推定し、家族による電話連絡協力など拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人一人十分注意しながらケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用が必要な方には関係機関との連絡をとり制度を活用していただき管理者より職員に説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解いただくよう解り易く説明を行いなるべく専門用語を用いないように努めている。特に施設内でのサービスの提供については家族の確認の元行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見をきちんと聞くように努めている。自分から訴えの出ないような方には会話の中から聞き取り表情等を確認しながら理解するように努めている。家族からは面会時や電話での状況報告時に確認している。	入居者の意見を否定せず聞き取り、その人らしい暮らしの継続を図っており、好きな畑仕事をホームでもできるなど支援している。家族とは来訪時、話しやすい雰囲気づくりを心がけ、個々の意見、要望の反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話の中で話しやすい場を作り日々の不安を聞いたりカンファレンス、職員会議を利用し職員との意見交換の場を設定している。思うように意見が出ない事もあるが職員への周知の場は確保出来ている。	日々の場やユニット毎カンファレンス、月1回の職員会議で意見、要望を聞いている。一人ひとりの入居者の食事介助、トイレ誘導や入浴介助などでその方に合った対応について職員間で話し合いサービスに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議を利用し法人の動向等周知を行い働きやすい環境整備にも心掛けている。介護職員への処遇改善交付金を利用して		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加している。外部・内部研修についても職員が満遍なく参加できるよう調整を行い研修参加の機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会が開催する研修会が比較的多くあり同業者との情報交換の場として活用している。同一法人内にもGHがあり情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査に伺った時や見学に来た時に本人からの話を聞く事により施設への不安を取り除くように努め安心して生活できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様に家族も不安な面は多くあるので施設での生活など家族の求めている事を聞き施設側で対応できる事は行えるよう話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・ケアマネージャーからも情報をいただき必要としている支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き等の家事仕事をさせていただいたり本人の得意分野(料理・裁縫・畑仕事等)を職員が教えていただいたりお互いが共感出来るような関係作りに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や広報誌の発行、面会時に日頃の生活の様子を伝えている。必要な場合には電話連絡にて連絡を入れている。又、家族からの要望を取り入れたり行事への参加を促し共に支えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事(夏祭り・敬老会等)に参加し今まで築き上げてきた関係が途切れない様に支えている。	事前調査、入居後聞き取りにより人や社会との関りを把握した情報シートを活用し馴染みの関係継続に努めている。夏祭り等地域に出かけての交流、行きつけの美容室の方がホームに迎えに来てくれる要請等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し食事の際の席の配置や日中の過ごす場所に配慮し気の合う人と過ごせるよう居心地の良い環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退居された場合でも面会に行き関係性を絶やさない様にしている。退去される場合に次の利用の提供先を一緒に考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの思いや暮らし方の要望、意向の把握に努めるようにしている。日常の会話の中にもヒントとなることもあるので些細なこともきちんと観察するように心がけている。	担当職員が思い、暮らし方の要望を日々の問いかけや入居者同士の会話からヒントを得ながら把握するよう心がけている。本人が遠慮してそうな方には相性の良い話しやすい職員を介しての聞き取りなど配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人からの情報でこれまでの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズム・身体状況の把握に努めその人の状態にあった生活を送っていただくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の状況や本人・家族からの意見や情報を取り入れ介護計画を作成し毎月のカンファレンスで話し合いを行っている。課題となる部分は出来るだけ本人の言葉で記入している。又、家族の面会時に計画書の説明を行っている。	入居者、家族、介護担当から聞いたニーズとケア内容を記載した生活援助計画を作り、日々のケア、モニタリングを行い、毎月開催カンファレンスで全員を評価し、見直している。定期的には3ヶ月毎、家族に説明、見直し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌の記入の他に情報共有のノートを作り気づきやケアの工夫を記入・供覧する事で日々のケアや介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族状況や要望に応じて通院、外出の援助を行っている。入退院時の送迎、入院時の洗濯ものの回収なども必要に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア・保育所・小中学校の訪問を取り入れたり夏祭りや交通安全運動等に参加し地域との関わりを持てるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関での受診を行っているが本人・家族が希望すれば希望する医療機関での受診を行っている。隣接する診療所での定期的な往診を行っており薬等の変更等は記録に残している。	本人、家族希望の医療機関受診を可能とし、協力医以外のかかりつけ医の方は家族同行を基本とし、日々のバイタル、暮らしを伝え、結果を伺い、共有化している。近隣協力診療所、かかりつけ医の週1回の回診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携をとり状態報告や相談、処置、受診時の援助等の適切な看護が行われるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と施設での情報交換に努め入退院時に向けた相談を病院・家族と行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化を家族・看護師・医師への報告を行っている。施設側で対応出来る範囲を家族へ説明し以後の方針の共有を行っている。	ホームとしてできることを検討し、医療関係者・家族等と協力して対応していくことを目的とした「重度化対応・終末期ケア対応指針」を成文化している。先ず、ホームと医療関係者との話し合いを進めていくことを検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での医療に関する研修や救命救急の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っており避難経路や消火器の設置場所の確認をしている。地域の消防団への応援依頼もしている。災害時用の非常食の備蓄も出来ている。	夜間想定1回を含む避難訓練を年2回実施している。地元消防団の参加を働きかけているが実現してない。運営推進会議で地域の協力を議題にとの提案があり課題としている。スプリンクラー、自動通報を設置している。	22年3月国の通知では、運営推進会議での非常対策強化点検項目に「地域における協力者確保」が記されており、地域の方、災害対策ノウハウを持つ消防団員の訓練協力を進めていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた言葉使いや声掛けに注意するも時折、口調が強くなったり早口で話すなど配慮に欠ける部分も見受けられる。	入居者の誇りを尊重し、馴れ合いに気をつけた言葉がけやトイレ誘導、排泄時、入浴時のプライバシーを損ねない対応に注意しながら介助している。呼ばれたい名前を聞き出し、スピード、トーンに気をつけ話しかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中活動(散歩、外出、行事)など本人の希望を尊重し出来るだけ希望に叶うよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースに合わせた支援を心掛けているが時に業務に合わせさせてしまっている時が見受けられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に衣類を選んでいただいたり家族に散髪をしてもらったりとその人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・盛り付け・片づけは個々の役割として一緒に行っている。誕生日には食べたいメニューを取り入れたり季節ごとの行事食も提供している。献立は管理栄養士が作り栄養のバランスがとれたメニューになっている。	隣接特養老人ホーム栄養士作成メニューをベースに入居者の体調等に配慮した食べ易い形態、味付けで調理し、入居者に寄り添い、ゆっくり話しかけ介助しながら共に食事している。芋煮会、外食、おやつ作りなど楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態により食事形態を変えている。摂取量が不十分な方には栄養士、看護師の指示の元、補助食品の提供、必要な水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力により義歯洗浄の支援、声掛け等の援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し適時のトイレ誘導をする事により失敗やおむつの使用を減らすような支援をしている。	排泄表を活用し、その方に合った排泄間隔での誘いかげやサインを見逃さないよう注意しながらトイレ排泄を支援している。各居室にトイレがあり、個々に合った夜間時の下着替えで入居者は安心して過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをし必要に応じて医師・看護師の指示の元、下剤を使用している。又、水分摂取や乳製品の摂取で便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の入浴者は決まっているが本人の意思、身体状況で入浴日を変えている。業務の関係上、時間帯を決めてしまっている。	週3回入浴を基本に入居者の希望に添った支援をしている。介護度の高い方への介助工夫、滑り止め、リフト浴など安心して入浴を楽しめるように配慮している。入浴を拒まれる方には誘いの工夫や職員連携で対応している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムや体調に合わせて居室・和室・娯楽室で休息していただいている。夜間も室温管理、布団の調整で安眠できるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報提供書をファイルし内容確認ができるようにしている。変更があった場合には日誌、連絡ノートに記入し申し送っている。症状に変化があった場合には速やかに医師・看護師へ連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族から情報をいただき得意分野を活かした役割や楽しみ事ができる支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけている。足が不自由な方でも車いすを使用し戸外へ出かけている。ドライブ、地域行事への参加も行っている。	特養ホーム、ケアハウス、学校、保育所などのある周辺は自然に恵まれ、日常の近隣散歩で季節を感じる事ができる。特養ホームでのボランティア来訪、週1回移動販売店買い物は外出の楽しみとなっている。ホーム便りには紅葉見物に兼ねた外食の入居者の笑顔が見られた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方はお金を所持し売店などで買い物をしている。管理ができない方は事務所で管理し必要な物は職員が代行購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する人がいれば電話をかけ会話をしたり年賀状を送るなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明・空調・テレビの音量等には適切に配慮し季節ごとの飾りや花などを飾り居心地良く過ごせるようにしている。又、掘りコタツがあり馴染みの環境作りをしている。	居間兼食堂は適温・適湿管理され、照明が明るく、風も通り自然換気が行われている。食堂や廊下に行事や誕生会写真と共に地域との交流や訪問写真が貼られ、思い出や話題作りに活かしている。花飾りやクリスマスツリー、雛飾りなど季節を感じて頂けるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間として娛樂室・和室・リビングがありそれぞれ好きな場所が確保できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきていただくように声掛けしている。写真などを飾り居心地がよい環境作りに努めている。	トイレ、洗面台、クローゼットが備え付けられ、障子を開けると共用の日当たりよい縁側があり自宅に居るような環境である。家族に働きかけ使い慣れた寝具、家具類、写真など持込んで頂き、居心地良く過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等が分かりやすいように表示しており廊下には手すりが設置され歩行しやすい環境作りをし安心した生活ができるようにしている。		

平成 23 年度

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300582		
法人名	社会福祉法人 宮城福祉会		
事業所名	うぐいすの里こもれびの家	ユニット名	れんげ
所在地	宮城県栗原市鶯沢南郷広面46		
自己評価作成日	平成 24年 1月 10日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成24年2月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の周辺には、保育所・幼稚園・小中学校・診療所等があり、医療・教育・福祉が一体化しているような環境である。そのため小中学校や保育所との交流は活発に行っている。また、特養が併設してある為多くのボランティアの訪問(踊りや歌など)があり、楽しみの一つとなっている。利用者様との関わりは、一人ひとりのペースに合わせて得意な物を行ってもらう事で役割を持ち、その人らしく楽しみを見つけながら生活していただくよう職員は心掛けている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本ホームは社会福祉法人宮城福祉会が2004年特別養護老人ホームに隣接して開設した2ユニット(1ユニットは障がい者4名との共生型ホーム)の施設で栗駒山を背景に敷地も広く建物もゆったりとした間取りとなっている。2007年にはケアハウスも開設され、近くの鶯沢診療所と共に、地域福祉を担う核(宝)となっている。運営に当たって地域との関係を深めるために意識的に地域への働きかけを行っており、保育所幼児、小・中学校生の受け入れだけでなく、入居者と共に小学校の窓拭きや校門での春秋交通安全運動呼びかけに出かけるなどの関係を深める活動は入居者、職員の楽しみとなっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 うぐいすの里こもれびの家 )「ユニット名 れんげ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に理念を作成している。ケア会議を行う際には理念に基づいたサービスが提供されているか確認を行っている。又、理念は業務日誌やホーム内に掲示し常に確認できるようにしている。	れんげ「ゆっくり・いっしょに・たのしく」、なでしこ「地域との交流」のユニット毎理念を作り上げ、実践に取り組んでいる。カンファレンス時の理念について話し合いやホーム内掲示、理念を書き込んだ日誌で共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に保育所、小中学校があり行事等での交流を行っている。夏祭りなど地域の行事に参加し地域住民との交流を図っている。又、地域のボランティアの踊り等の訪問を積極的に受けている。	地域での春秋、花いっぱい運動参加、小学校前での交通安全呼びかけ、小学校の窓拭き等の地元活動やホームでの保育所幼児との交流会、夏祭りの子供神輿や踊りボランティア来訪など地域とのつきあいを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に積極的に行っていない。今後の課題ではあると思われるが地域行事に積極的に参加し地域にこのような施設があり施設を利用しながら地域交流が出来る事を啓発していくことも大切だと考える。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	参加いただいている方々より積極的に意見をいただき日々のケアに生かし地域活動の取り組みに活用している。推進委員は地域、市町村、家族、利用者等のメンバーで開催している。	入居者、区長、民生委員、支所職員、地域包括支援センター職員をメンバーに震災後対応具休策、DVDによるホーム生活を紹介しての助言等双方向の意見交換をしている。この1年は、これまで3回の開催にとどまっている。	管理者は一層のサービス向上を図るための案件を検討中と話している。県指導の年6回以上の開催と推進会議での双方向な意見も活用したサービス向上への反映を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事務手続きや研修・検診などの情報をいただいたり細やかな対応をいただきながら連携を図っている。	支所職員が毎回参加して推進会議の場でホームの実情理解への働きかけを行っている。震災時の避難者受け入れや困難事例、介護保険関係の手続きなどで支所や市役所へ出向き相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃のケアの中でも注意している事の一つである。身体拘束や言葉での拘束が行われてないか日々目配り・気配りをし対応している。又、近隣住民にも連絡の協力をいただいている。	入居者一人ひとりの外出傾向を把握し、声かけや見守りなどで対応している。隣接ケアハウスや近隣からの連絡も頂いている。落ちつかない入居者について職員間で話し合い、家の心配が要因と推定し、家族による電話連絡協力など拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人一人十分注意しながらケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用が必要な方には関係機関との連絡をとり制度を活用していただき管理者より職員に説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解いただくよう解り易く説明を行いなるべく専門用語を用いないように努めている。特に施設内でのサービスの提供については家族の確認の元行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見をきちんと聞くように努めている。自分から訴えの出ないような方には会話の中から聞き取り表情等を確認しながら理解するように努めている。家族からは面会時や電話での状況報告時に確認している。	入居者の意見を否定せず聞き取り、その人らしい暮らしの継続を図っており、好きな畑仕事をホームでもできるなど支援している。家族とは来訪時、話しやすい雰囲気づくりを心がけ、個々の意見、要望の反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話の中で話しやすい場を作り日々の不安を聞いたりカンファレンス、職員会議を利用し職員との意見交換の場を設定している。思うように意見が出ない事もあるが職員への周知の場は確保出来ている。	日々の場やユニット毎カンファレンス、月1回の職員会議で意見、要望を聞いている。一人ひとりの入居者の食事介助、トイレ誘導や入浴介助などでのその方に合った対応について職員間で話し合いサービスに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議を利用し法人の動向等周知を行い働きやすい環境整備にも心掛けている。介護職員への処遇改善交付金を利用して		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加している。外部・内部研修についても職員が満遍なく参加できるよう調整を行い研修参加の機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会が開催する研修会が比較的多くあり同業者との情報交換の場として活用している。同一法人内にもGHがあり情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査に伺った時や見学に来た時に本人からの話を聞く事により施設への不安を取り除くように努め安心して生活できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様に家族も不安な面は多くあるので施設での生活など家族の求めている事を聞き施設側で対応できる事は行えるよう話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・ケアマネージャーからも情報をいただき必要としている支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き等の家事仕事をさせていただいたり本人の得意分野(料理・裁縫・畑仕事等)を職員が教えていただいたりお互いが共感出来るような関係作りに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や広報誌の発行、面会時に日頃の生活の様子を伝えている。必要な場合には電話連絡にて連絡を入れている。又、家族からの要望を取り入れたり行事への参加を促し共に支えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や美容院を利用したり地域の行事(夏祭り・敬老会等)に参加し今まで築き上げてきた関係が途切れない様に支えている。	事前調査、入居後聞き取りにより人や社会との関りを把握した情報シートを活用し馴染みの関係継続に努めている。夏祭り等地域に出かけての交流、行きつけの美容室の方がホームに迎えに来てくれる要請等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し食事の際の席の配置や日中の過ごす場所に配慮し気の合う人と過ごせるよう居心地の良い環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退居された場合でも面会に行き関係性を絶やささない様になっている。退去される場合に次の利用の提供先を一緒に考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの思いや暮らし方の要望、意向の把握に努めるようにしている。日常の会話の中にもヒントとなることもあるので些細なこともきちんと観察するように心がけている。	担当職員が思い、暮らし方の要望を日々の問いかけや入居者同士の会話からヒントを得ながら把握するよう心がけている。本人が遠慮してそうな方には相性の良い話しやすい職員を介しての聞き取りなど配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人からの情報でこれまでの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズム・身体状況の把握に努めその人の状態にあった生活を送っていただくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の状況や本人・家族からの意見や情報を取り入れ介護計画を作成し毎月のカンファレンスで話し合いを行っている。課題となる部分は出来るだけ本人の言葉で記入している。又、家族の面会時に計画書の説明を行っている。	入居者、家族、介護担当から聞いたニーズとケア内容を記載した生活援助計画を作り、日々のケア、モニタリングを行い、毎月開催カンファレンスで全員を評価し、見直している。定期的には3ヶ月毎、家族に説明、見直し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌の記入の他に情報共有のノートを作り気づきやケアの工夫を記入・供覧する事で日々のケアや介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族状況や要望に応じて通院、外出の援助を行っている。入退院時の送迎、入院時の洗濯ものの回収なども必要に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア・保育所・小中学校の訪問を取り入れたり夏祭りや交通安全運動等に参加し地域との関わりを持てるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関での受診を行っているが本人・家族が希望すれば希望する医療機関での受診を行っている。隣接する診療所での定期的な往診を行っており薬等の変更等は記録に残している。	本人、家族希望の医療機関受診を可能とし、協力医以外のかかりつけ医の方は家族同行を基本とし、日々のバイタル、暮らしを伝え、結果を伺い、共有化している。近隣協力診療所、かかりつけ医の週1回の回診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携をとり状態報告や相談、処置、受診時の援助等の適切な看護が行われるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と施設での情報交換に努め入退院時に向けた相談を病院・家族と行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化を家族・看護師・医師への報告を行っている。施設側で対応出来る範囲を家族へ説明し以後の方針の共有を行っている。	ホームとしてできることを検討し、医療関係者・家族等と協力して対応していくことを目的とした「重度化対応・終末期ケア対応指針」を成文化している。先ず、ホームと医療関係者との話し合いを進めていくことを検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での医療に関する研修や救命救急の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っており避難経路や消火器の設置場所の確認をしている。地域の消防団への応援依頼もしている。災害時用の非常食の備蓄も出来ている。	夜間想定1回を含む避難訓練を年2回実施している。地元消防団の参加を働きかけているが実現してない。運営推進会議で地域の協力を議題にとの提案があり課題としている。スプリンクラー、自動通報を設置している。	22年3月国の通知では、運営推進会議での非常対策強化点検項目に「地域における協力者確保」が記されており、地域の方、災害対策ノウハウを持つ消防団員の訓練協力を進めていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた言葉使いや声掛けに注意するも時折、口調が強くなったり早口で話すなど配慮に欠ける部分も見受けられる。	入居者の誇りを尊重し、馴れ合いに気をつけた言葉がけやトイレ誘導、排泄時、入浴時のプライバシーを損ねない対応に注意しながら介助している。呼ばれたい名前を聞き出し、スピード、トーンに気をつけ話しかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中活動(散歩、外出、行事)など本人の希望を尊重し出来るだけ希望に叶うよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースに合わせた支援を心掛けているが時に業務に合わせてしまっている時が見受けられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に衣類を選んでいただいたり馴染みの美容院を利用しその人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・盛り付け・片づけは個々の役割として一緒に行っている。誕生日には食べたいメニューを取り入れたり季節ごとの行事食も提供している。献立は管理栄養士が作り栄養のバランスがとれたメニューになっている。	隣接特養老人ホーム栄養士作成メニューをベースに入居者の体調等に配慮した食べ易い形態、味付けで調理し、入居者に寄り添い、ゆっくり話しかけ介助しながら共に食事している。芋煮会、外食、おやつ作りなど楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態により食事形態を変えている。摂取量が不十分な方には栄養士、看護師の指示の元、補助食品の提供、必要な水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力により義歯洗浄の支援、声掛け等の援助を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し摘時のトイレ誘導をする事により失敗やオムツの使用を減らすような支援をしている。	排泄表を活用し、その方に合った排泄間隔での誘いかけやサインを見逃さないよう注意しながらトイレ排泄を支援している。各居室にトイレがあり、個々に合った夜間時の下着替えで入居者は安心して過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをし必要に応じて医師・看護師の指示の元、下剤を使用している。又、水分摂取や乳製品の摂取で便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の入浴者は決まっているか本人の意思、身体状況で入浴日を変えている。拒否がある方には時間をおいて声掛けする、職員を変えてみる等で入浴を促している。業務の関係上、時間帯を決めてしまっている	週3回入浴を基本に入居者の希望に添った支援をしている。介護度の高い方への介助工夫、滑り止め、リフト浴など安心して入浴を楽しめるように配慮している。入浴を拒まれる方には誘いの工夫や職員連携で対応している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムや体調に合わせて居室・和室・娛樂室で休息していただいている。夜間も室温管理、布団の調整で安眠できるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報提供書をファイルし内容確認ができるようにしている。変更があった場合には日誌、連絡ノートに記入し申し送っている。症状に変化があった場合には速やかに医師・看護師へ連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族から情報をいただき得意分野を活かした役割や楽しみ事ができる支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけている。足が不自由な方でも車いすを使用し戸外へ出かけている。ドライブ、地域行事への参加も行っている。	特養ホーム、ケアハウス、学校、保育所などのある周辺は自然に恵まれ、日常の近隣散歩で季節を感じる事ができる。特養ホームでのボランティア来訪、週1回移動販売店買い物は外出の楽しみとなっている。ホーム便りには紅葉見物に兼ねた外食の入居者の笑顔が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方はお金を所持している。管理ができない方は事務所で管理し必要な物は職員が代行購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する人がいれば電話をかけ会話をしたり来た電話を本人に取り次いだり年賀状を送るなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明・空調・テレビの音量等には適切に配慮し季節ごとの飾りや花などを飾り居心地良く過ごせるようにしている。又、掘りコタツがあり馴染みの環境作りをしている。	居間兼食堂は適温・適湿管理され、照明が明るく、風も通り自然換気が行われている。食堂や廊下に行事や誕生会写真と共に地域との交流や訪問写真が貼られ、思い出や話題作りに活かしている。花飾りやクリスマスツリー、雛飾りなど季節を感じて頂けるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間として娛樂室・和室・リビングがありそれぞれ好きな場所が確保できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきていただくように声掛けしている。写真などを飾り居心地がよい環境作りに努めている。	トイレ、洗面台、クローゼットが備え付けられ、障子を開けると共用の日当たりよい縁側があり自宅に居るような環境である。家族に働きかけ使い慣れた寝具、家具類、写真など持込んで頂き、居心地良く過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等が分かりやすいように表示しており廊下には手すりが設置され歩行しやすい環境作りをし安心した生活ができるようにしている。		